

令和7年度 府中市立白糸台小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 平仮名の読み書きができる児童が9割以上いるが、音情報と文字情報の一致がまだできていない児童との差が大きい。 - 音読や黙読をすることができる児童は多いが、意味理解をしながら読むことが難しい児童がいる。 - 平仮名の書き順が疎かな児童がいる。	- 範読の際に指でたどるように指示するなど、どの単語を読んでいるかを可視化することができるような指導、支援を行う。【対話】 - 授業中や宿題などで文章を自分で読み味わう時間を多く設定する。【対話】 - 漢字や片仮名の指導の際に、平仮名の書き順も同時に確認する。【表現】	B	B
算数	- 加法・減法ともに、具体物がなければ計算することができない児童が多い。 - 文章を読み、問題に応じた立式をすることが難しい。 - 加法・減法の意味を理解する。	- プリントや計算カードでの演習時間を多く確保し、習熟度を高める。【発見】 - 文章中の立式の根拠となる数字や言葉に下線や印を付けながら、問題文を読む習慣をつけさせる。【決定】 - 具体物を用いて、加法・減法の意味を理解しながら問題を解かせる。【表現】	A	A
生活	- 児童自ら疑問をもつことが少ない。 - 表現力がまだ乏しく、どのように書いたり伝えたりしたらよいか不安になる児童がいる。 - 自分の興味あることだけしか意欲が湧かない児童がいる。	- 普段の生活の中で教員が身近な問題を投げかけ、児童の興味・関心を高めさせる。【発見】 - 児童同士、気付きや考えを交流する場面を意図的に設定する。【対話】 - 児童の様々な気付きを教員が紹介し、他のことにも興味をもたせる。【決定】	B	B
音楽	- 歌うことが好きな児童が多いが、楽器の使い方や技能については個人差がある。 - 前時までに学習したことを振り返り、本時に生かすことが難しい児童がいる。 - 歌詞の意味を考えたり、場面を想像したりしながら自分で表現することが難しい。	- 早く課題が終わった児童は別の曲に取り組ませるなど、指導の個別化を図る。【決定】 - 導入場面で学習したことを振り返ったり、繰り返して活動したりする中で定着を図る。【発見】 - 思いを表現する場を計画的に作り、様々な方法で表現したり、友達同士交流したりする。【表現】	B	B
図画工作	- 意欲的に取り組む児童が多い一方で、自由な発想をすることに抵抗や不安のある児童もいる。お手本や教科書の作品をそのまま真似をして作り上げる児童がいる。 - 用具（はさみやのりなど）の使い方が適切かつていねいにできない児童が多数いる。	- 授業の導入にお互いに発想を認め合い高め合えるような工夫を行う。例えば、教科書は最初に見せずにクラス全体で言葉からイメージを広げたり、発想が広がる資料を用意したり、画材や材料に何か発想のきっかけを作っておいたりする。【発見・表現】 - はさみの持ち方や刃の動かし方、のりの適切な量の出し方など、使用する学習の中でその都度、指導していく。【決定】	B	B
体育	- これまでの運動経験が少ない児童や運動嫌いの児童が体を動かすこと、挑戦することの楽しさを味わうことができていない。 - 自己の課題を見付けて、解決していこうとする思考がまだ習得できていない。	- 運動が得意な児童の良いところを見たり、教えてもらったりする時間を授業の中に設定する。教え合いや、教師の補助により「できた」経験を称賛し、楽しさを体得させる。【対話】 - 学習カードを用いて、めあてや振り返りを記入し、自己の課題を明確化させる。【発見・決定】	A	A

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立白糸台小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 自分の考えや思ったことなどを、知っている言葉をつかってすぐに表現することが難しい児童がいる。 - 漢字のテストでは、7割以上点数を取れている児童が少ない。漢字の学習に対して、苦手意識をもっている。	- 教師が例文を示してイメージをわかせたり、書いている友達の意見を聞いたりして自分で表現できるようにする。また、国語の教科書の巻末の言葉の宝箱を使って、文を書く練習をする。【対話・表現】 - 授業や家庭学習で、タブレットやプリント、ワークを使って反復して練習し、定着を図る。【発見】	B	B
算数	2桁と1桁の計算等を暗算することが難しい児童が多く、問題を解くのに時間がかかる児童がいる。 - 数量感覚が十分でなく、設問に対して解答がずれていても違和感を抱かない場面がある。 - 時刻、時間の感覚が十分でなく、○時間後、○分前などの時刻を答えることが難しい。	- 授業中の課題や宿題で、繰り返し演習を積むことで、計算力の向上を図る。【表現】 - 数量感覚をつかむため、具体物を操作したり、イメージしたりする場面を設定する。【対話】 - 授業外の時間でも、時刻時間に触れる機会を増やし、日常生活でも時刻と時間の知識を活用できるように気付かせる。【発見】	B	B
生活	- 身の回りの気付いたことを絵に描いたり、文章に表現したりする活動に、表現力の差がある。 - 課題に継続して粘り強く取り組んだり、工夫しながら取り組んだりすることが苦手な児童がいる。	- 思いを表現する場を計画的に作り、よい見本や様々な方法を体験しながらよりよい表現を身に付けさせる。【表現】 - 教室環境を整え、試行錯誤や繰り返す活動、ICTを活用し、交流したり振り返ったりする活動を多く取り入れる。【発見】	B	B
音楽	- 歌うことが好きな児童が多いが、楽器の技能については個人差がある。 - 自分の思いをもったり、友達のよさに気付き取り入れたりすることが難しい。	- 全体指導、個別指導を継続的に行ったり、鑑賞教材などでよい演奏などを聞いたりしながら、技能を高める。【表現】 - 歌詞の意味を考えたり、場面を想像させたりしながら、自分の思いをもてるよう指導し、友達との交流で深めることができるようにする。【発見】	B	B
図画工作	- 自分の考えたことを表現しようとする児童が多いが、思ったように用具を使いこなすことが難しい。 - 自分の考えが広がらず、つくることが難しい児童や早くつくり終わる児童がいる。意欲が継続できない。	- 授業のはじめに、用具の使い方、やり方などを確認し、自分の作品で思いのままに表現できるようにする。【決定】 - つくる前に教科書の例をみてから自分なりにイメージしたことを全体に共有したり、友達の作品を鑑賞する時間を長くとったりすることで友達の考えやよさを見つけるなど自分の作品に活かし、意欲的に取り組めるような場をつくる。【対話・表現】	A	A
体育	- 体を動かすことが好きな児童は多いが、思ったように体を動かすことが苦手な児童もいる。 - 指示を聞いて、すばやく行動したり、やることを理解したりすることが苦手な児童もいる。 - 友達と考えたことや感想、遊び方や工夫したことを話し合う機会が少ない。	- 簡単な遊びから基本的な体の動かし方を知り、体を動かすことの楽しさを経験させ、動きの幅を広げられるようにする。【発見】 - 学習、生活指導を通して、話を聞く姿勢を身に付けさせる。【対話】 - グループでの児童の主体性に重きを置いた活動や、タブレット等を用いた振り返りを通して、課題点やよさを見付け、交流する機会を設ける。【対話】	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立白糸台小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 漢字は正答率7割を超える児童が全体の6割であり、苦手とする児童が多い。 - 教材文に対する感想は書けるが、叙述に沿った考えを形成したり、書き表したりすることが難しい。	- 漢字の反復学習に親しんで行うことができるツールを、一人一台タブレットを用いて実施する。【発見】 - 児童が問題解決に進んで行えるよう、話し合いの場を多く設けるとともに、活動の目的や記述に対する観点を視覚化する。【対話・表現】	B	B
算数	- 計算問題は得意とする児童が多い。しかし、未だに九九が定着していない児童も数名いる - 既習の知識をいかして文章から立式する問題に苦手意識がある。	- 九九の定着を図るために、フラッシュカードなどを導入で使う。また、定着しきれていない児童には、九九表などを使って問題に取り組ませる。 - 文章問題では、数多くの立式方法がでるように様々な考えを共有する。	B	B
理科	- 学習に進んで取り組む姿勢はあるが、知識の定着が浅い。 - 実験単元では結果から考察したり、なぜそのような結果になったのか、自身の言葉で説明したりすることを苦手としている児童が多い。	- 新しく学習した用語を使って自身の言葉で整理し、友達と共有する場面を設ける。【対話】 - 実験の目的をおさえ、予想の際に結果の見通しまで立てさせ、自身の言葉で考えをまとめる時間を多くとる。【発見・表現】	B	B
社会	- 資料から読み取れることを、自分の言葉で説明することに苦手意識がある。 - 既習の知識と、資料を関連付けることが難しい。	- 資料から分かったことや気付いたことをメモにとり、それらを基にまとめの活動をする練習を何度も行う。【表現】 - 既習の知識を提示して、それと関連するようにまとめを書く練習をする。【対話・表現】	B	B
音楽	- 集中力が続かず、活動内容を理解することや思考することが難しい児童がいる。 - 器楽における基礎的技能を身に付けることに時間がかかる。	- 要点を絞って活動内容を提示し、分かりやすい授業となるように掲示物、ICTの活用等工夫する。【発見】 - 継続した学習と個別の指導を大切にする。身体表現を取り入れ、のびのびと演奏できるようにしていく。【表現】	B	B
図画工作	- 自分が表現したいアイディアはもっているものの、授業で習った技法と絡めて表現できないことがある。 - 多くの児童が積極的に取り組む一方で、イメージがもてない児童もいる。	- 技法の意図や用途を活動前にしっかり説明する。また、児童が振り返ることができるように実物投影機でビックパットに技法の見本を映す。【発見】 - 教科書の見本をビックパットや黒板に多く提示して、イメージがもてるようにする。	B	B
体育	- 運動によって技能の個人差がある。 - 課題解決の意識をもって取り組む児童が少ない。 - 児童の思考や表現して協働的に学ぶ時間が少ない。	- 自分の課題にあったスモールステップの場を設定する。【決定】 - 毎時間めあてを設定する。振り返りでは、めあてに対しての自分を評価をし、自分の課題を見付ける学習サイクルをつくる。【発見・表現】 - 互いに見合ったり、助言したりできるようにペアやグループ学習で協働的に学び合う場や時間を設定する。【対話・表現】	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立白糸台小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 漢字の学習では、苦手意識をもっている児童が多い。 - 物語について読む活動では、進んで学習に取り組む児童がいる一方で、自分の考えに自信がもてず、難しいと感じている児童もいる。 - 説明文では、筆者の考えや構造の読みを把握することに苦手意識をもつ児童もいる。	- 漢字を正しく、正確に書けるように繰り返し学習し定着を図る。【表現】 - 本を読む活動を通して、物語や文章の構造に着目し読めるようにするとともに、言葉の語彙を増やす。【決定】 - 自分の考えをもてるように、相手の考えをよく聞き、共感したことをまずは書く。【対話】	B	B
算数	- 基礎基本的な学習事項の理解が不十分な児童が多く、四則演算を正確に行えない児童がいる。 - 思考力・表現力に個人差があり、論理立てて考えることに課題がある。	- 繰り上がりや繰り下がりをしっかりかくよう指導し、九九はタブレットの100ます計算を活用して復習する。 - ペア学習などで友達に考えを説明する機会を増やす。	C	B
理科	- 問題に対する根拠のある予想を生活経験や既習事項から考えることができていない児童が多い。また、実験・観察に意欲的な児童が多い。一方で、問題に対して実験結果からどのようなことが言えるのかを考えることが難しい児童も多い。 - 実験方法を考える場面では、条件制御や何を使用するかなど児童から全てを引き出すことは難しい。	- 適宜、「問題」や何を調べるための実験かを確認する。また、実験結果から気づいたことや考えたことなどの意見交流をすることで考えを深め、学び合いの場を設ける。【対話】 - 実験方法では、調べたいことを明確にし、複数の選択肢から選ぶ。【決定】	B	B
社会	- 都道府県の位置や漢字を覚えることに積極的な児童が多い。だが、各都道府県の位置や特色を把握している児童の数には個人差がある。 - 社会的事象を自分事として捉え、社会の一員としてどう考えていくか、自分の考えをもつことに課題がある。	- 定期的に都道府県テストを行い、理解の定着を図る。【決定】 - 単元の導入で、学習問題を全体で共有する。単元の最後に、学習内容を生かし、社会の一員としてできることを考える時間を設定する。【対話、表現】	B	B
音楽	- 声を重ねることはできるが、相手の声部を聴きながら歌うことは難しい。 - リコーダーや打楽器を楽しんで演奏しているが、基本的な知識や奏法が身に付いていない児童もいる。	- 音の重なりを意識しながら、2パートで歌う経験を増やす。【発見・決定】 - 児童同士の学び合いの場を設けるとともに、声の出し方を意識した指導を重ねながら、安心して声を出したり演奏したりする雰囲気づくりに努める。【対話・表現】	B	B
図画工作	- 発想したことと、表現方法がかみ合っていないことがある。発想したことに応じた表現方法を自分なりに工夫できていない様子がみられる。 - 発想はしているが、表すために粘り強く創作しようとして、楽な表現方法で済まそうとする児童がいる。	- 色々な表現方法や材料、画材の特徴を知ること、自分が表現したい情景にあった表現をできるようにしていく。【発見・表現】 - 難しい表現方法や根拠がある創作活動でも、指導、援助しながら完成させ、達成感を味わえるようにする。【対話・表現】	B	B
体育	- 運動技能の個人差がある。 - 技能のポイントを知り、友達に伝えたり、学習カードに分かったことを表現したりすることに課題がある児童が多い。	- ペアやグループ活動を通して協働的な学びから技能を高める学習の流れを設定する。 - 技能のポイントやコツを聞き、全体で共有したり、板書したりして思考する時間や活動を増やす。	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立白糸台小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 物語文で、登場人物の心情を情景や会話文などの表現から読み取る力が十分に育っていない。 - 言葉の選び方や表現の工夫に注目して読む経験が少なく、文脈をもとに意味を捉える力が弱い。 - 説明文で、段落構成や接続語の働きを理解し、内容を論理的に組み立てる力が十分でない。 - 語彙が限られており、感じたことや考えたことを多様な言葉で表現する力が弱い。	- 物語文では、登場人物の行動・会話・情景描写などに着目し、心情を読み取る手がかりを明確にする学習活動を取り入れる。場面ごとの心情の変化を整理し、根拠をもって考える力を育てる。【対話】 - 説明文では、段落構成や接続語の役割を意識させ、内容のつながりを視覚的に整理する活動を行う。自分の考えを「主張→理由→具体例→まとめ」の構成で表現する練習を重ね、論理的に書く力を育てる。【対話】 - 語彙力の向上を図るために、読書や音読、言葉集めなどの活動を通して多様な言葉に触れる機会を増やす。感じたことや考えたことを豊かに表現できるよう、言葉の使い方や表現の幅を広げる学習を行う。【表現】	B	B
算数	- 四則計算特に「割り算」を苦手としている。小数が入る計算になると、その傾向が強くなる。基礎基本的な学力が十分とは言えない児童が一定数いる。そのため、各個人の基礎学力の向上が必要である。 - 文章問題などの課題に対する苦手意識が全体的に高いため、思考力・判断力の向上が重要。	- 教材の工夫や問題の難易度の検討等を行い、児童の実態に合わせた、個別最適な授業を行う。また、基礎的、基本的な学習を反復して取り組ませ、計算を速く、正確にできるよう指導していく。【対話】【決定】 - 問題を視覚化する方法を指導し、問題を適切に把握できるようにする。【決定】 - 文章を読解する力も必要なため、国語等でも声掛けをし、教科横断的に対応する。【表現】	B	B
理科	- 問題を自分事としてとらえ、解決策を発想する。 - 問題解決をするにあたり条件を整えながら実験を行う方法を考える。 - 問題解決に当たり自分の考えを持つことが難しい児童がいる。	- 自分の考えをもつ時間を確保し、意見交流から問題を解決していく見通しが持てるようにする。【対話】 - 解決したい内容を確認し、変える条件は1つであることを徹底していく。【表現】	B	B
社会	- 社会的事象を日常生活と関連付けて考え、自分ならどうするかと置き換えて考えることに課題がある。 - 資料と資料を関連付けて読み取ることに課題がある。	- 調べたい課題を自ら選択する時間を設けることで、興味をもつことができるよう指導する。【発見・決定】 - 情報を絞って資料の見方や読み取り方を全体で確認する。【対話】	B	B
音楽	- 音楽における基本的な知識はあるが、音楽表現に活用することが難しい。 - 友達と協働して音楽をつくる、教え合い、高める経験が十分ではない。	- ペアやグループの活動を行い、友達の表現を自分の表現に生かせるようにする【対話・表現】 - 鑑賞の学習でも、曲のよさやおもしろさを感じ取り、音楽表現の幅広さを楽しむ態度を育てる。【発見・決定】 - 自ら創作した曲や練習した曲を発表することで、達成感を味わわせ、意欲につなげる。【決定】	B	B
図画工作	- 自分のイメージしたことや表したいことはあるが、作品にそれが表れていない場合がある。 - 発想したり工夫したりすることに難しさを感じ、創作を深めることができない時がある。	- イメージや発想と具体的な表現方法がつながるように、様々な例を挙げるなど、対話から表現につなげられるようにしていく。【対話・表現】 - 色々な作例を提示したり、友達の工夫を紹介したりして、発想や工夫の仕方の糸口をつかめるようにする。【発見・決定】	B	B
家庭	- 調理や裁縫等、家庭で演習する機会を設けなければならない。 - 得た知識から、自己の課題や家庭・生活の課題を見つけ、振り返る実践力が弱い。	- 実習だけでなく、家庭で実践できる課題を与え、事前に保護者と活動し、それを授業で生かすことができるようにする。【発見・表現】 - ノートに計画し、実践する中で気付いてことや疑問に思ったことを振り返らせる。【発見・表現】	B	B

令和7年度 府中市立白糸台小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

体育	・運動に対する興味・関心は高い。その一方で、児童が苦手に思う器械運動などの競技には参加意欲に差がある。 ・自分の課題を見つけ、工夫して運動に取り組めない児童がいる。	・掲示物や ICT 機器を活用し、自分の運動の様子を客観的に確認し、課題を知る機会をつくるとともに、技能を習得するための場の工夫、ポイントや補助の仕方を提示する。【発見・決定】 ・ペア・グループ学習に取り組ませ、友達同士で教え合う場面を設定するとともに、学習の習得状況を適宜確認し、児童自身が学習計画を修正できるようにする。【対話・決定】	B	B
外国語	・身近な話題を英語で取り扱うことで、児童が主体的に会話を楽しむことができるようにする。 ・スピーキングテストの際に、間違えたらどうしようという不安を感じている児童が多い。	・ICT 端末を活用し、絵と写真または実物を見比べながら会話する。【対話】 ・児童の話す英語の自信につながる声掛けを、教師が積極的に英語で伝える。	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	・全国学力状況調査より、「読むこと」が14ポイント都平均よりも低い数値であった。史実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に抑え、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することが課題である。 ・話を聞く姿勢については身に付いているが、内容を理解し、自分の考えをまとめることに困難を感じている児童が多い。 ・語彙が少なく、自身の考えを豊かに表現することに難しさを感じている児童が多い。	・日常的に読書する時間を設け、読解力の向上を図る。また、文章を読んだ後には、要旨や感想文を書く機会を作る。【発見】 ・付箋やタブレットなど、考えを自由に組み替えられるツールを使い、相手に伝わりやすい話の順序を視覚化してとらえられるようにする。【表現】 ・「言葉の宝箱」を活用し、その学年で身に付けたい語彙の習得を図る。【表現】	B	B
算数	・全国学力状況調査より、全体成績は東京都の平均より、1ポイント低い。学習指導要領の領域「C 変化と関係」以外は、ポイントが下回った。 ・知識技能の項目をもつ問題の多くが、マイナスポイントになっている。	・朝学習や宿題でプリントに取り組ませたり、授業の導入で内容の確認を行ったりなど、反復練習を行い、基礎基本の定着を図る。【表現】 ・算数に興味・関心がもてるよう、身近な問題を取り上げたり、過去の内容を掲示したりと、日頃から、基礎基本の定着を促し、意欲をもって取り組めるような授業づくりや環境整備を行う。【表現・決定】	B	B
理科	・実験や観察は熱心に取り組むが、問題から解決方法を発想する力が弱い。 ・問題を解決するにあたり、条件に見合った解決の方法を探り、粘り強く見通しをもちながら解決に当たっていく姿勢を育む。	・実験や観察の目的を丁寧に確認し、問題解決の流れや意図をおさえる。 ・実験結果や観察内容から結論を導きだし、どのように問題が解決していったのかを振り返る。【対話・発見】	B	B
社会	・資料を読み取り、そこからどのようなことが言えるのか考察することが課題である。 ・学習問題の答えをノートにまとめる力に個人差がある。	・調べ学習などを通して、自分で問われている事柄の答えを資料から探し、考察する活動を増やす。【発見・表現】 ・単元の最初に立てた学習計画を毎時間意識させ、最後に調べたことや自分の考えをまとめられるようにする。【決定】	B	B
音楽	・積極的に表現する児童もいるが、個人差があるため、全体的な学習意欲を高めることが必要である。 ・器楽を演奏する際に、音に対する意識が低い児童がいる。	・演奏を発表する場を設けることで、他の人の演奏を聴くことの大切さと、その良さを自分の表現に生かそうとする態度を育てる。【発見】 ・合奏において、自分や周りの音に集中し、パートの役割、メロディーやハーモニーなどを意識した演奏を目標に取り組ませる。【発見・決定】	B	B

令和7年度 府中市立白糸台小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

図画工作	・自分なりのイメージをもったり発想したりすることが難しい児童がいる。また、発想したことを表すことについても苦手意識をもっている様子もみられる。 ・難しいと感じると、途中であきらめてしまう姿がある。	・それぞれの表現を認め合ったり、互いの工夫を取り入れたりしながら活動させる。【対話・発見】 ・難しさを感じる原因を解決する方法を考えるとともに、完成した時の達成感を味わえるように見通しをもたせる。【対話・表現】	B	B
家庭	・自分の生活を振り返りながら、学習に取り組むことができるが、学んだことをその後の生活に生かすことに課題がある。 ・清掃道具の適切な使用方法や調理器具の扱い方を全員が身に付けることが課題。	・家庭とも連携を図り、実生活に生かせるような課題を児童に与える。【発見】 ・児童一人一人の学習の定着具合を確認し、課題がある児童には個別で指導していく。また、道具等は実際に見せながら説明し、使用させる。【決定】	B	B
体育	・暑さによって外で運動する機会が減り、体育の授業へのモチベーションが落ちたり、活動後にすぐ疲れてしまったりする子も見られる。 ・授業の振り返りの記述内容や量、カードの管理・提出への意識に差がある。	・授業の導入において、体を動かす楽しさが感じられるような活動、体力をつけるための継続した運動を取り入れる。【発見・表現】 ・めあてに即した振り返りができるよう、毎時間声を掛ける。記録することで成長や課題が見つけれられるというカードの良さを伝える。【対話】	B	B
外国語	・ジェスチャー（身振り、手振り）を付けて表現することが苦手である。ALT からジェスチャーを付けるように指示されてもなかなかやらない。 ・仲良しの友達を中心とした会話のやり取りが主になっている。	・実際の会話のやりとりや様子（日本人と他国の人が分かる動画を見せ、それらの表現方法に親しむ時間をとる。【発見・表現】 ・仲良しの友達以外にも複数の子たちと関わりがもてるようグループ構成を工夫する。【決定】	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。